

第 51 回 Wellbeing 研究会

「簡単！負担軽減！スマートな介護記録の実現に向けて」開催レポート

日 時：平成 30 年 12 月 13 日（木） 15 時 00 分～17 時 00 分

会 場：仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館 カンファレンスルーム（仙台市青葉区水の森 3-24-1）

対 象：介護現場において IT・ICT を活用して介護記録の負担軽減、生産性向上を目指す福祉施設管理者、福祉事業経営者、福祉分野に関心が高い IT 製品を取り扱う事業所の方等

受講者：43 名

最近、目にする機会が増えた「超高齢社会（2025 年問題）」、「介護人材の不足」及び「働き方改革」の文字。今回は多くの介護事業所の皆様にとって関心の高いテーマである「介護記録」に着目し、介護記録の負担軽減、生産性を向上させる事により、多くの時間を利用者様へのサービス提供に時間を割いて頂きたい事から第 51 回 Wellbeing 研究会を開催致しました。

「ICT を利用した介護記録の概要とトレンド～簡単スマートな介護記録に向けて～」

合同会社かいご支援サービス 代表社員 次田 芳尚 氏

- ・介護は「人間」の生活に関わる事を記録しており、そのため医療・看護分野と比較するとそもそも記録する対象事項は膨大である。
- ・介護サービスの提供における証拠となるのは介護記録のみであり、法律で決まっている事から記録をする必要がある。
- ・介護記録の ICT 化が進んでいる介護施設は僅かであり、その僅かな介護施設の中でも「果たして ICT 化に成功したのか」ともややもやしている層が多数であるのが現状である。
- ・介護記録は定型的な部分が 8 割、記述部分が 2 割と考えられており、その定型的な部分を統一するためにも介護施設内でルールを統一し、職員間における介護記録の認識を標準化させる事が必要である。
- ・今後は ICT が更に発達し、センサー、写真及び音声翻訳機能等を活用する事により、介護記録は「書かない」時代に突入するだろう。
- ・介護記録は一定年数保管する事が法律で義務付けられており、今後どの様に保管するかも踏まえて ICT 化を検討する必要がある。

「IC タグを用いてペーパーレスを実現した訪問介護記録」

あつるケア株式会社 取締役 コンプライアンス担当 秋山 宗之 氏

- ・従前の経営が思わしくなかった事から、経営改善を図るべく、より訪問先での業務に特化して取り組む事が出来る介護ソフトの検討を始めた。
- ・介護ソフトについては妥協せず、自分達が現場で求める機能を備えた介護ソフトを探していたところ今回紹介する介護ソフトに出合った。
- ・介護ソフト導入に当たり、初期費用を要したが、「紙ベースの報告書類ゼロ」、「リアルタイムでの指示が可能」及び「書類作成に要していた時間が空いた事によるサービス提供時間の増」等多くのポジティブな効果があった
- ・あくまでも IT 化は手段であり、何故導入するのかを明確にして IT 化を進める事が重要である。

「スマートフォンで簡単入力、人中心の記録システム」

社会福祉法人ウエル千寿会 特別養護老人ホーム萩の風 常務理事兼施設長 田中 伸弥 氏

- ・介護ソフト導入に当たり、「何故この介護ソフトを入れるのか」を明確にした上で導入した。
- ・介護記録のための記録に追われ、残業時間が多かった状況から、リアルタイムの情報をより分かり易い画像・動画で記録する事で記録のための残業が少なくなった。
- ・残業時間の削減に加え、入居者・ご家族の方々との距離も近くなり、職員同士もお互いに使い方を教え合う中でより一体感が高まる等の素晴らしい効果も見られた。
- ・福祉は人と人の関わりが非常に重要であり、その関わりを大切にしていくためにも介護記録等の間接業務を徹底して削減していくため、IT化を進める決意が必要である。

